

3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（平成25年確定）

1) 普通作物

(1) 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	全般に発生は少なかったが、一部でトリコデルマ属菌による苗立枯病がみられた。	4月の天候不順により、育苗施設の温度管理や水管理が適切にできなかったところがあった。
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：多	梅雨明け前からの高温により、多くの地域で少発生にとどまっていたが、冷水利用や初期防除を行わなかったほ場等の一部で、発生が見られた。	ここ数年葉いもちの発生が少なかったため、菌密度が低いと考えられる。また梅雨明け前からの高温により、発生が抑制された。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：多	県内全域で発生がみられた。発生ほ場率は平年並だったが、発生穂率は少なかった。	葉いもちの発生が少なかったが、7月下旬に曇雨天が続いて、発生に好適な条件となった。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	7月の発生はやや少なかったが、8月以降発生が広く見られるようになった。一部で高い程度のは場もみられたが、全体としてはやや少ない状況だった。	7月中旬の高温と多雨により発生に好適な条件だった。稲の生育が過繁茂だったため、発生が助長されたほ場もみられた。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	定期調査での発生は少なかったが、一部に発生程度の高い施設が見られた。	概ね適切な種子消毒や育苗管理が行われたが、4月の天候不順で一部管理が不十分だった。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：多	平年並の発生だったが、地域によって発生に偏りがみられた。	穂ばらみ期から出穂期の7月下旬が曇雨天で経過したため、発生に好適な条件だった。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：多	県全域で発生が増加した。県南部では発生程度の高いほ場が見られ、減収したほ場もあった。これまで少発生だった県中北部でも発生が目立つほ場が増加した。	ヒメトビウンカ第一世代幼虫の保毒虫率が高かった。 8月上旬本田でのヒメトビウンカの発生量も非常に多かった。
黄萎病	平年：－ 前年：－	平年：平年並 前年：やや多	県中北部の一部で発生程度の高いほ場がみられたが、県全体としては平年並だった。	箱施用剤防除が行われていない地域で発生程度の高いほ場が見られる。
ヒメトビウンカ	平年：早 前年：やや早	平年：多 前年：多	本田の飛込み時期は早い傾向。 5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。7月中旬、8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は多。	麦ほ場に生息している期間の好天により、第2回成虫の発生量が多かった。また、7～8月の気温が高く推移したため、増殖には好適な条件であった。
ツマグロヨコバイ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生量は平年並。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数は少ない。 8月上旬の本田におけるすくい取り調査の発生量は少。	本県への飛来は少なかった。
トビイロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺数は少ない。	本県への飛来は少なかった。
ニカメイガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生量はやや少ない。 7月中旬の心枯茎の発生株率はやや少なく、8月下旬から9月上旬の白穂の発病穂率は県中を中心にやや多い。	越冬幼虫の発生程度はやや少なかったが、7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	予察灯における誘殺数はやや少ない。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：並	5月から9月までの予察灯調査期間中の総誘殺数はやや少ない。	春期の気温が高く推移したため、飛来が早まった。
イネツトムシ（イチモンジセセリ）	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：並	7月上旬の発生程度はやや少、8月上旬はやや多。	夏季の高温により飛来量が増加した。
イナゴ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	8月上旬の本田におけるすくい取り調査では、発生程度は平年並であった。	
斑点米カメムシ類（ホソヘリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）	平年：やや早 前年：やや遅	平年：平年並 前年：やや少	7月中旬のイネ科牧草地での発生量は多。クモヘリカメムシは平年並、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメは多、ホソヘリカメムシはやや少ない。8月上旬の本田におけるすくい取り調査での発生量は平年並。	6月中下旬の気温が高く、カスミカメムシ類の増殖に好適であったが、7月が高温・少雨で経過したため、牧草が適正に収穫されたことと雑草地の早期枯れ熟れにより幼虫の増殖が阻害され、水田への飛来が抑制された。

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：多	県中南部の小麦ほ場の一部で軽微な発生が見られた。	登熟期間の5月中下旬が高温・少雨だったため、発生に不適な条件だった。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	5月中旬まで発生は少なかった。5月下旬の調査でも小麦で軽微な発生が見られる程度だった。	登熟期間の5月中下旬が高温・少雨だったため、発生に不適な条件だった。
大麦縮萎病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや多	3月に六条大麦の一部で発生が見られたが、全般に少ない発生だった。	二条大麦はⅢ型抵抗性品種に切り替わった。
小麦縮萎病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：少ない	4月中旬調査で、り病性品種の作付けが多い地域で発生が見られた。	これまで発生が多かった地域で抵抗性品種や大麦への作付転換が進んだ。
大麦斑葉病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	少ない発生であった。	健全な種子が供給された。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	子実調査の発生ほ場率は平年並だったが、発生程度は軽微だった。	8月が高温少雨だったため、発生に不適な条件だった。
べと病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	8月中旬は多く、9月上旬はやや多くなった。	べと病に弱い品種が作付けされた地域で発生が見られた。
コガネムシ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	東北の予察灯では7月を中心としてオオクロコガネ誘殺数が一時的に多くなった。	堆肥を利用する飼料作物が多い地域では、成虫が大豆に飛び込む機会が多い。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：並	8月中旬は平年並、9月上旬は多かった。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
ダイズサヤタマバエ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
シロイチモジマダラメイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
マメシンクイガ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－		
吸実性カメムシ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：やや少	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの誘殺はやや早い傾向。ほ場での吸実性カメムシ類の発生程度は8月中旬、9月上旬とも平年並。	7～8月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であった。
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：並	フェロモントラップによる成虫誘殺はやや多い傾向。大豆における幼虫の発生ほ場率は8月中旬は高く、9月上旬は平年並。幼虫頭数は9月上旬は若齢～中齢を中心に多く、発生程度は並。	8～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であったが、9月上旬に降水量が多く、発生がやや抑制された。
フタスジヒメハムシ	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：並	発生程度は、8月中旬は平年並、9月上旬はやや多であった。	8～9月の気温が高く推移したため、発生には好適な条件であったが、9月上旬に降水量が多く、発生がやや抑制された。

2) 野菜

(1) いちご(親株・育苗床：平成25年6～9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：やや遅	平年：やや少 前年：やや少	親株での発生は少なかったが、育苗期後半になって一部のほ場で増加した。中でも夜冷処理施設での発生が目立った。	潜在感染苗の持ち込みによって施設内で広がった。8月の気温が平年に比べて高温であったため発生が助長された。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	7月に一部のほ場で発生が見られたが、9月になると散見されるほ場が増え、やや多い発生となった。	前作の本ほ場で発生が見られた生産者において、発生が見られたことから、汚染土壌の混入によると考えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	定植が早かったほ場(親株)でのみ発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般に平年並の発生であったが、9月に多発生のほ場が見られた。	遮光したほ場での発生が目立った。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	親株、育苗期間を通して平年並の発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：並	親株、育苗期間を通して平年並の発生であった。	
コナジラミ類	平年：並	平年：やや少	親株、育苗期間を通してやや少～平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

いちご（本ぽ：平成25年10月～平成26年5月）

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であった。	育苗期後半に発生が増加したため、多くのほ場では潜在感染株の持ち込みがあったと考えられた。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	全般にやや多い発生であった。	9月中旬～10月中旬（定植後1か月間）の高温により発生が助長された。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	12月までは少なく、1月以降やや少～平年並の発生で推移した。	
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般にやや少～平年並の発生であった。	9月中旬～10月中旬（定植後1か月間）の高温により発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	1月から増加しはじめ、2、3月には多い発生となった。	アブラムシ類は防除の優先順位が低く、後手に回りやすい傾向にある。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	10、11月と多い発生であったが、その後は平年並～やや多で推移した。	薬剤感受性の低下が著しく、薬剤防除だけでは発生が抑制できない。一方、天敵が普及した施設では、年明け以降には発生が落ち着く傾向にあった。
コナジラミ類	平年：やや少	平年：並	一般的にやや少～平年並の発生であった。	一部の施設ではラノーテープが利用されており、発生密度が抑制されている。

(2) 夏秋トマト（平成24年6～9月）

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	5～8月の気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	6月から発生が見られ、7月下旬～8月上旬の集中的な降雨により、一部のほ場で発生が急増したが、全般にはやや少ない発生であった。	5～8月の降水量は並～少で経過したため、発生が抑制された。
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	発生は一部のほ場に限られたが、抵抗性品種での発生が見られた。発生ほ場では7月下旬～8月上旬の集中的な降雨により発生が急増したが、全般にはやや少ない発生であった。	抵抗性品種が中心に作付けされているが、一部抵抗性品種で発生が見られ、新しいレースの発生が疑われた。
モザイク病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。一部のほ場でキュウリモザイクウイルス(CMV)による糸葉症状や果実の着色不良が散見された。	5月から継続してアブラムシ類(媒介虫)の発生が多かったため、発生しやすい条件となった。
黄化葉巻病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	育苗期からコナジラミ類の適切な防除が行われた。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	発生は少～平年並みで推移した。	
コナジラミ類	平年：並	平年：並	全般に平年並みの発生であった。	
ハモグリバエ類	平年：並	平年：やや少	発生は少～並で推移した。	

(3) 冬春トマト（平成24年10月～平成25年5月）

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや少 前年：並	発生は一部のほ場に限られたが、例年よりもやや早く発生が見られた。	台風の影響により、10月中旬以降の降水量が多く、日照時間が少なかったため発生が早まった。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	全般にやや少ない発生であった。	
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：やや多	越冬作型での発生が目立ち、11月以降多い発生で推移した。	抵抗性品種が中心に作付けされているが、一部抵抗性品種で発生が見られ、新しいレースの発生が疑われた。
モザイク病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般に少ない発生であった。一部のほ場でキュウリモザイクウイルス(CMV)による糸葉症状や果実の着色不良が散見された。	育苗期にアブラムシ類(媒介虫)の発生が多かったため、発生しやすい条件となった。
黄化葉巻病	平年：やや早 前年：並	平年：並 前年：やや少	育苗期に発生が見られほ場では、定植後も継続的に発生が見られた。	育苗期の感染や感染苗の持ち込みによる発生が原因と考えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	
コナジラミ類	平年：並	平年：やや少	全般にやや少ない発生であった。	
ハモグリバエ類	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	

(4) 夏秋なす (平成24年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：並 前年：やや早	平年：やや多 前年：並	6月はやや少ない発生であったが、7月以降やや多い発生となった。	6、7月の集中的な降雨や日照不足により発生が助長された。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半身萎凋病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	6月から発生が見られ、全般に平年並の発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっているが、過去に発生したほ場での発生が目立った。
青枯病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	水田との輪作、抵抗性・耐病性台木が普及しているため発生は少なくなっている。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	6月には多かったが、その後平年並で推移した。	高温によって発生が助長されたと考えられた。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	6月から8月にかけてやや多~多く推移した。	高温によって発生が助長されたと考えられた。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	6月から8月にかけて平年並~やや多く推移した。	高温によって発生が助長されたと考えられた。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。

(5) 夏秋きゅうり (平成24年6~9月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	5~8月の降水量は並~少で経過したため、発生が抑制された。
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	定植が早いほ場で発生が目立った。	
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	生育初期から発生が見られ7月までは平年並、8月以降は全般にやや少ない発生であった。	7月までは生育に適した気温で経過したが、8月以降は高温により発生が抑制された。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	8月までは発生は少なく、9月になってからやや少ない発生となった。	5~8月の降水量は並~少、日照時間は並~多で経過したため、発生が抑制された。
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	5~8月の気温が平年に比べて高温で経過したため発生が抑制された。
ハモグリバエ類	平年：やや少	平年：並	発生は少~平年並みで推移した。	
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	4、5月は多く、6月はやや多く、7月には平年並みの発生であった。	夏季の気温が高く降水量も少なく、発生に好適な条件であった。薬剤感受性の低下も多発の一因と考えられた。
アブラムシ類	平年：少	平年：並	全般的に少ない発生であった。	

(6) 冬春きゅうり (平成24年10月~平成25年5月)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であったが、2月以降やや多くなった。	
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	全般にやや少ない発生であった。	10月の以降の気温が平年に比べて低く経過したため発生が抑制された。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般に平年並の発生であったが、2月以降やや少なくなった。	
疫病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	
ハモグリバエ類	平年：並	平年：やや少	発生は少~平年並みで推移した。	
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	施設により発生程度のばらつきが大きかったが、10、11、1月には多い発生となった。	薬剤感受性の低下により、栽培末期には防除に関わらず発生が多くなる傾向にある。
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	

(7) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	12月に一部のほ場で発生が見られた。	11月中旬以降の低温が発生の一因と考えられた。
白斑葉枯病	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：並	例年よりも早くから発生が見られた。	
さび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	10月、11月に発生が目立ったが、12月以降少ない発生となった。	
株腐細菌病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	
ネダニ	平年：並	平年：多	全般的に多い発生であった。	同一ほ場で長年にわたり作付されており、発生しやすい環境となっている。

(8) ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：多	8月までは平年並の発生であったが、9月に入ると少ない発生となった。	8月の高温、少雨であったため発生が抑えられた。
べと病	平年：やや早 前年：早い	平年：やや多 前年：多	7月はやや多い発生であったが、8月以降は少ない発生となった。	6、7月の集中的な降雨や日照不足により発生が助長された。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	全般に平年並の発生であった。	
萎縮病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年並	平年：並	全般に平年並の発生であった。	生育期には寄生が多いものの、収穫前の適切な防除により被害は抑えられた。
ハモグリバエ類	平年並	平年：並	7、8月にはやや多い発生であったが、9月以降は減少した。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネギコガ	平年並	平年：やや多	7月は多く、8月はやや多かったが、以降発生は減少した。	7月時点ではチョウ目を対象とした防除圧が低かったことが、発生の一因と考えられる。

(9) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅 前年：並	平年：多 前年：やや多	3月までは少ない発生であったが、4月以降発生が急増し、多い発生となった。	4月下旬～5月上旬の低温、4月の多雨により発生が助長された。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：やや少	4月にはやや多かったが、5月には少発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：並	4月にはやや多く、5月には多く発生した。	薬剤感受性の低下および商品部位への加害が無いため十分な防除が行われていないことが原因と考えられる。

(10) あぶらな科野菜(だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：並	平年：やや多	5、6月に一部地点で、8、9月には全体的に発生が多くなった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年：並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(11) 冬レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月の高温により発生が抑えられた。
菌核病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	9月の高温により発生が抑えられた。
軟腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	
アブラムシ類	平年並	平年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(12) 野菜共通 (さといも、だいこん)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並	フェロモントラップによるハスモンヨトウ成虫の誘殺数は、一部地点で9月にやや多くなったが、全般に平年並の発生であった。	
オオタバコガ	平年：やや早	平年：やや多	フェロモントラップの誘殺開始は平年より早く、発生量も多かった。7月および9月に一部地点で誘殺数が多かった。	

3) 果樹

(1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	県内の主力品種は、耐病性のある幸水、豊水が作付けされている。
黒星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生量は、5月はやや少なく、6月にやや多くなったものの、7、8月は平年並となった。	開花後（5月上旬）の降水量が少なく、日照時間も多かったため、発生に不適な条件となった。6月中旬頃の多雨により、一時的に発生が増加した。その後の降水は局所的で、日照時間も平年並で、発生は増加しなかった。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	5月の発生は少なかったが、6月～8月の発生は平年並～やや多く推移した。	4月の降水量は多く、発生に好適な条件であったが、産地のジャクシン類が少なく、飛散孢子量が少なかった。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	発生はやや少～並で推移したが、8月にはやや多くなった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並	平年：やや少 前年：やや多	少～平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晩腐病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅 前年：遅	平年：やや少 前年：少	5～7月は少ない発生であったが、8月に平年並の発生となった。	5～6月の気温は平年に比べ高く、降水量は少ない～平年並で発生が抑制された。
黒とう病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	7月以降、一部の品種で発生が見られた。	5月の降水量は平年に比べ少なく、発生が抑制された。
チャノコカク モンハマキ	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：少 前年：少	9月に一部ほ場で散見程度の発生が見られたが、一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	8月に平年並の発生となったが、一般的に少ない発生であった。	産地のジャクシン類が少なく、飛散孢子量が少なかった。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	一般的に少ない発生であった。	5～6月の気温が高く、降水量は少ない～平年並で、発生に不適な条件となり、発生が抑えられた。
輪紋病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	一般的に少ない発生であった。	
ハダニ類	平年：並	平年：並	一般的に平年並の発生であり、8月から9月にかけて一部ほ場でやや多く発生した。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類 幼虫	平年：並	平年：少	一般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：並	平年：少	フェロモントラップによる誘殺数は、少なく推移した。	
ナシヒメシクイ	平年：並	平年：並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並で推移した。	
モモシクイガ	平年：並	平年：並	全般に平年並の発生であった。	
リンゴコカク モンハマキ	平年：並	平年：並	全般に平年並の発生であった。	

4) 花き
(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	4月および12月に一部のほ場で発生が見られたが、全体的に少ない発生であった。	4月は降水量がかなり多く、発生に好適であったが、5月以降、気温が高く推移し発生が抑えられた。12月も降水量が多く、発生に好適な条件となったが、適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並	平年：並	施設間での発生の差異が非常に大きく、発生は少～多で変動した。	一部で防除が遅れ、発生の多いほ場も見られた。
アザミウマ類	平年：並	平年：やや多	施設間での発生の差異が非常に大きい。6～9月までは多く、その後は12月まで少なく推移したが、1月以降は一部の施設で発生がみられた。	昨年から引き続き多い発生が続いている。夏期の高温により発生が増加したと考えられる。また、薬剤抵抗性の発達により難防除となっている。
ハダニ類	平年：並	平年：やや多	施設間での発生の差異が非常に大きい。5月には多く、7月にはやや多い発生であったが、その後は平年並で推移した。	発生量はステージに依存しており、施設ごとに発生傾向が異なる。また、新剤の登場により、夏以降には発生が比較的抑制された。
ハスモンヨトウ	平年：並	平年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。